

目次

部 駒場のごみの処理方法

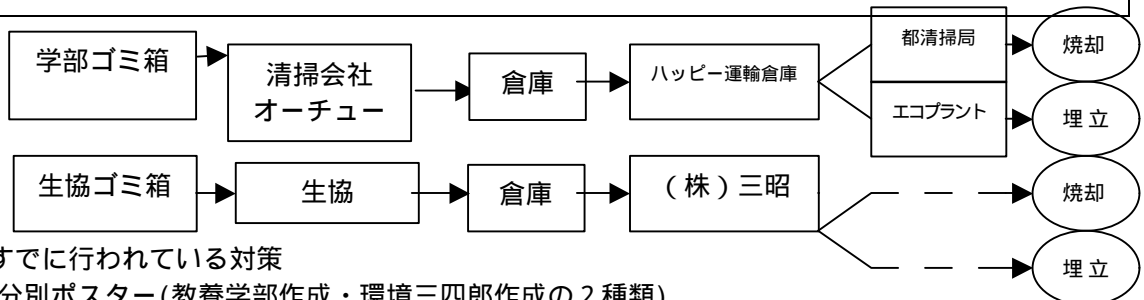
- 1 . 可燃・不燃
- 2 . 紙
- 3 . 弁当箱
- 4 . ペットボトル
- 5 . 立看
- 6 . ダンボール
- 7 . 容器包装
- 8 . 粗大ゴミ
- 9 . 生ゴミ
- 10 . 落ち葉

部 ごみ箱設置・分別状況調査

部 不法投機マップ

1 . 可燃・不燃

1 現状



すでに行われている対策

分別ポスター(教養学部作成・環境三四郎作成の2種類)

ゴミ箱のセット化(可燃・不燃・ピンカンの3種類)*ただしまだ徹底していない。

2 問題点

可燃ゴミが運搬される都の清掃局でも、不燃ゴミが運搬されるエコプラントでも、分別されていないものは引き取ってもらえない。例えば、可燃ゴミの中にペットボトルが入っていたら、NGとなる。そのため、受け取ってもらえないものはハッピー運輸倉庫が再分別している。その際のコストはハッピー運輸倉庫が負担している。

去年環境三四郎調べの分別率は、

可燃：51%

不燃：63%

であったが、その後分別ポスターをはったことにより分別率は向上していると思われる。以下清掃会社オーチャー談

「可燃ゴミに不燃ゴミが混入することよりも、不燃ゴミに可燃ゴミが混入することの方が多。ゴミの分別にはゴミ箱のセットかを徹底させる必要がある。張り紙(環境三四郎作成)の効果は抜群」

3 改善策

- ・ゴミ箱のセット化を徹底させる。
- ・可燃不燃の分別項目を明記した、プラスチック(など、簡単にはとれないもの)の表示を作成し、永続的にはっておく。
- ・学生のモラルを高めるために、新入生に対する学部オリエンテーションでのゴミ分別に関する説明・注意をより徹底させる。

2. 紙

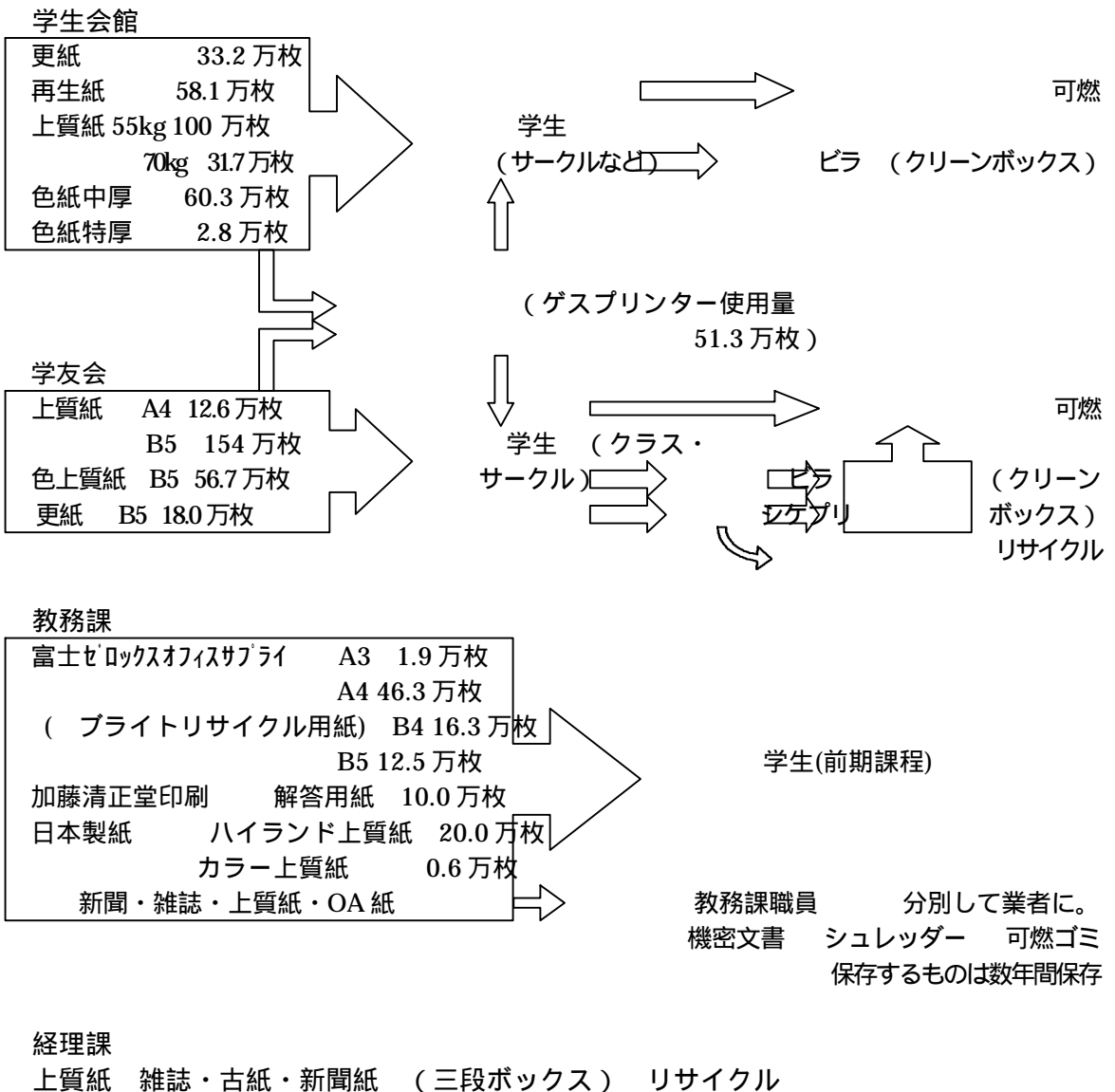
1 現状

生協

紙類の販売量 : 不明 (大量の伝票を調べれば分かるが、不可能)

種類 : 上質紙、更紙、色紙、OA紙、感熱紙などほとんどの種類

コピー用紙 (古紙配合率70・白色度70) 使用量 : 約290万枚/年 (98/3~99/2のコピー売上から推定)

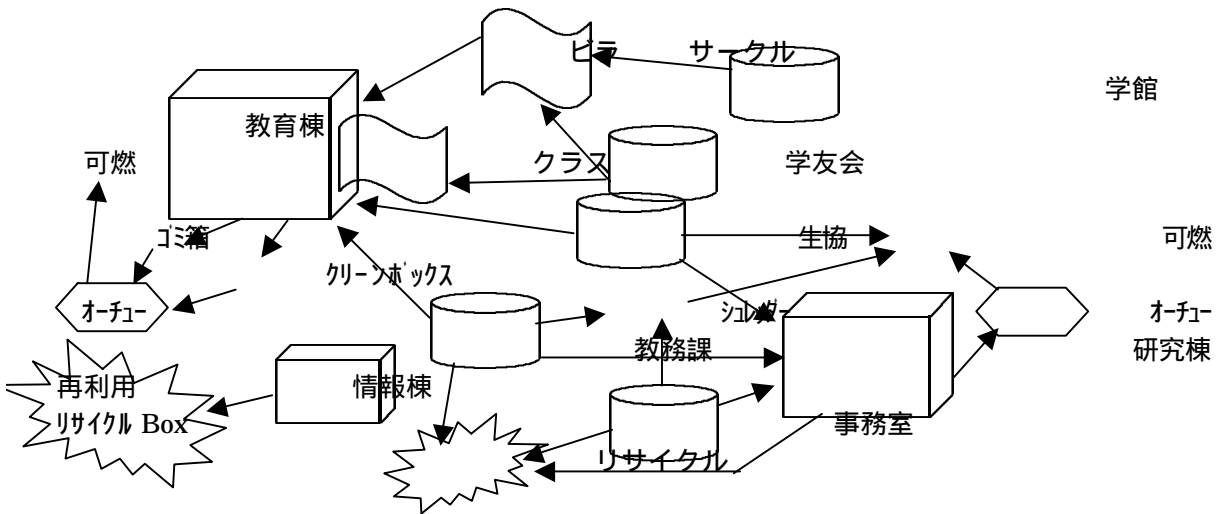


サークルなどから排出される紙ゴミも、1号館紙倉庫に持参すればリサイクルされる。

事務室 紙の使用はプリントアウトとコピーである。消費量は、去年と同レベル。

参考 昨年の消費量 : 上質紙 15t

再生紙 14t (主にコピー用紙(古紙配合率70・白色度80))



2 問題点

問題点は大きく分けて3つ

- ・学館の色紙の9割が3月に販売されており、新歓期のビラに使用されている。大量のビラは読まれずに捨てられている。教室の置きビラも同様である。
- ・データとして具体的なものはないが、両面コピーの普及率が低い。
- ・講義のレジメの両面印刷の普及率も低い。
- ・ビラはクリーンボックスで回収されることとなっているが、実際は他のゴミが混入しているため、可燃として処理されている。したがってビラのリサイクルルートがない。
- ・大量に出回るシケプリのリサイクル確立していない。
- ・ゴミの混入がリサイクルを妨げている。
- ・再生紙の利用がまだまだ低い。
- ・ビラでサークルの勧誘をする慣行。しかも、色上質紙を使い同じビラを何枚も同じ人に渡している。教室の置きビラも同様。
- ・シケプリや情報棟での印刷など、もともとある情報を紙上での情報として伝達している。

3 改善策

- ・ビラの規制とともに、代替となる情報伝達手段の開発
- ・学生、教員ともに両面印刷の推進
- ・裏紙の利用

-
- ・クリーンボックスの意味を問い直し、ビラを純粹に回収する方法を再構築する。
 - ・ 時期が集中するシケプリの回収ルートをつくり、シケ長の協力を得てリサイクル意識の浸透を図る。
 - ・ 学生の分別を徹底させ、上質紙がリサイクルされるようにする。
 - ・ 古紙購入の促進。
 - ・ 電子化された文書を安易に印刷しない。

3 . 弁当箱

1 現状

- ・流れ：弁当箱販売所と食堂にある弁当箱容器回収箱に入れられた弁当箱を、生協が回収し、それをそのまま容器メーカーである（株）エフピコに回される。
（回収されたものは全てエフピコに回す。エフピコの工場で、きれいな容器はリサイクルに回され、汚いものはリサイクルの流れからはずれ、エフピコの焼却炉で燃やされる。そのため、生協側では回収箱に出された弁当箱容器のうち、どれだけリサイクルされるかということとはつかめていない。）
- ・販売と回収：販売量は駒場では5万7720個で、本郷では8万2083個。そのうちの2万9千400個が弁当箱容器回収箱に入れられる。これは率に直すと23%である。
（本郷と駒場で合わせた統計しか取っておらず、それぞれの回収量はわからない。）
- ・一般ゴミ箱への投棄：可燃ゴミ、不燃ゴミの区別があいまい。ペットボトル等と一緒に袋に入れられて捨てられていることが多く、清掃会社であるオーチューが分別している。

現在取られている対策

- ・割箸の袋に弁当箱容器リサイクルの宣伝をしてもらっている。

2 問題点

- ・弁当箱容器のリサイクル自体が学生にあまり知られておらず、回収率が非常に低い。
- ・弁当箱容器回収箱に入れられる弁当箱容器がきれいでないことが多い（きれいでないリサイクル工程から外されてしまう）。また、汚い弁当箱が回収箱に入れられてあるので、それを見て、弁当箱を洗うのが面倒臭くなったり、洗わないでいいのだと思う人が多い。
- ・弁当を食べ終わった際、可燃ゴミである残飯・割箸と、不燃ゴミである容器・フタなどが同時に出て、一般ゴミとして捨てられる際にも分別があまりされない。
- ・弁当箱容器リサイクルのことを知っていても、回収箱の位置が偏っているため（生協食堂付近のみ）、捨てに行くのにとっても手間がかかる。
- ・上に共通して、学生の意識が低い。
- ・回収のために生協に協力して頂く際、人件費などがかかるものは生協側としても協力が難しい。
（例えば、デポジット制を導入するとしても、弁当箱を回収し、お金を払い戻す人が必要となる。）
- *デポジット制とは、「商品の料金一定の金額を上乗せして販売し、容器を返せばその金額を返す」という、回収を促進するための制度。
- ・置きっぱなし：1教室に約2個位弁当箱などが置きっぱなしになっている。

3 改善策

- 学生への呼びかけ 弁当箱リサイクルの存在と、その正しいやりかたを知ってもらう。
- ・回収箱を目立たせる。

- ・立て看板、横断幕で呼びかける。
- ・ポスターなどをゴミ箱付近に張り付ける。(弁当箱が捨てられるとしたらゴミ箱であり、そこに張るポスター、張り紙を目立つようにしておけば、学生がみんな見る。)
- ハード面での整備 よりリサイクルがしやすい環境を作る。
- ・回収箱の位置を増やす。
- ・弁当箱を洗う負担を軽減する。現在は水で洗わなければならないが、新聞の切れ端等で弁当箱を拭けるような環境を作る。現在生協食堂付近にしか回収箱がないのは水で洗う必要があるからであり、このような環境が作られれば、回収箱の増加も行ないやすいはずである。)

4 . ペットボトル

1 現状

今年に入ってから、500mlPETボトルの販売を開始した。ポイ捨てもみられ、販売量が夏に向かって売上が増加する傾向にあるため、さらに状況が悪化すると思われる。回収率は低く、ふたがとられていない、洗われていないものもある。回収ボックスにはわずかながらではあるが、レシート等、その他のゴミも捨てられている。ビン・缶などに混ざってペットが捨てられていることが多い。回収するにあたり、5円/本のコストがかかっている。

2 問題点

- ・リサイクルボックスでの回収率が低い。リサイクルボックスの数が少ない。PETを洗える場所が少ない。
- ・分別が悪い。学生の意識と知識が不足。
- ・不燃ゴミとして捨てられてしまう。ボックスの数が少ない。回収にコストがかかるため、学部では扱わない。
- ・回収費用がかかる。

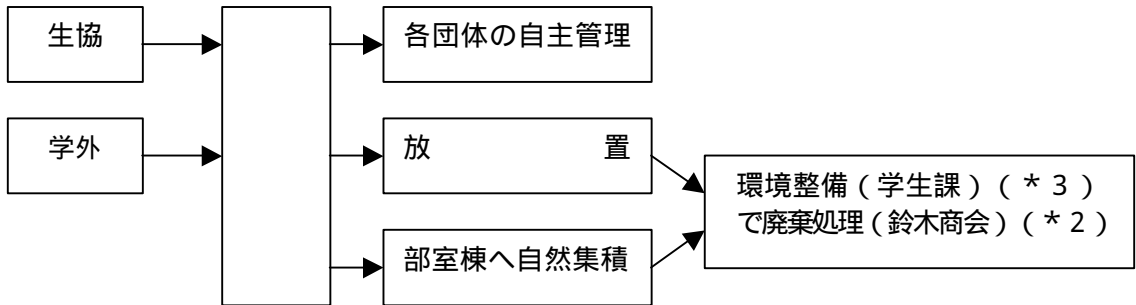
3 改善策

- ・学生ができること
ビン・缶に混入が多いのは、リサイクルボックスを探して入れるのは面倒だが不燃に入れるよりはリサイクルされる。ビン・缶のところにいれておけば、誰がどこで分別するとの期待を持っているものだと思う。おそらく、ほとんどの学生は全く意識がないわけではないので、もう少し意識が知識が増えれば、回収率があがるのではないかと。
- ・生協ができること
生協は現在回収箱を大きくすることと増設することを検討中である。回収箱が増えれば回収率が上がるのは当然であるが、これだけでは、洗われないものが増えることになる。その他に学生にもっと積極的に回収を呼びかけることが可能だろう。回収率と回収されたものの質がよければ回収コストもさげられるのではないかと。
- ・その他
弁当箱などについても同じ事が言えるが、駒場にはこれらを洗える場所が非常に少ない。これがかなりマイナス効果だと思う。またPETの回収箱は授業によく使われる建物の出入口付近に設置すると効果が高いように思われる。

5 . 立看

1 現状

資材



- * 1 駒場際の時期などに販売
- * 2 学生会館やキャンパスプラザにおいてあるものは学生会館委員が管理しているわけではない。
- * 3 昨年度は、3回実施された。費用は18万円。

現在とられている対策

学生課が、環境整備のときに、まとめて処分している。

2 問題点

- ・ 風雨の時壊れた部分が風に煽られて危険である。(素手に立看が倒れてきて怪我をした人がいる)
- ・ 車両入構の妨害となる。
- ・ 放置された立て看板がキャンパスの景観を損ねている。
- ・ 廃棄に多額の費用と人手が必要。

3 改善策

立て看板を一括して管理する責任を持つ主体を決め(あるいは新しく組織し)、立て看板を使用している団体の把握できるようにする。そして、資材の再利用のシステムをも構築していく。

6 . ダンボール

1 現状

生協 回収業者 100%リサイクル
 (長岡商店)
 *お菓子、本などの梱包用

学生、教職員 清掃業者 100%リサイクル
 リサイクル倉庫
 紙倉庫 100%リサイクル
 箱として再利用
 *紙類の梱包用

- ・生協からは、年間21,4t@駒場 *購買部、食堂部、書籍部の合計
- ・学生、教職員からの量・内分けは不明

[現在行われている対策]

- ・ recycle * 排出先が決まっているため回収・リサイクルが比較的うまく
 いているようである
- ・ reuse : 一部で行われている

2 問題点

特になし

3 改善策

- ・ recycleの更なる促進
- ・ reduce * 紙などの浪費をなくせば必然的に排出減少
 * 流通構造上なくすのは無理と思われる

7. 容器包装

1 現状

- ・可燃ゴミ
ハッピー運輸倉庫が回収 都の清掃局（分別されているもののみ） 可燃処理
- ・不燃ゴミ

エコプラント（城南島）

分別されていないと受け取ってもらえない。

（ビン・カンの混入は許されない。）

もう一度エコプラントへ

持って帰って再分別

うめ立て最終処分場へ

消費量

- ・ 包装袋 478,3 t/年 1個 = 1gで換算
 - <内訳> ・ 購買部 406.7 t/年
 - ・ 書籍部 41.6 t/年
 - ・ 食堂 30 t/年
- ・ パン・おにぎり・サンドイッチ 2246.7 t/年 1個 = 0.5gで換算
- ・ 不燃ゴミ ? t/年

2 問題点

- ・ 不燃ゴミと可燃ゴミの区別の不徹底。分別されていないと回収業者に受け取ってもらえないという問題が生じる。
- ・ 軽いからとんで散らばりやすい。
- ・ まだ可燃/不燃ゴミの区別のないゴミ捨て場がある。

3 改善策

<分別について>

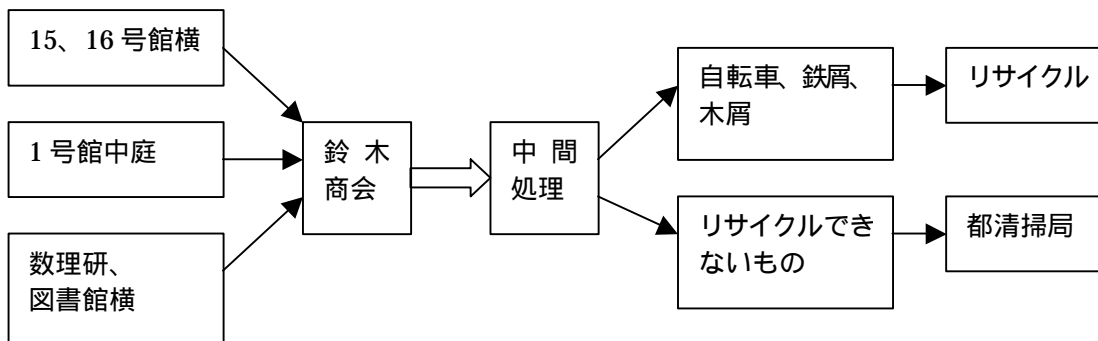
- ・ 意識の向上 分別知識の普及とモラル
- ・ 表示の工夫 商品に表示のしてあるものをすすんで買うよう生協にはたらきかける。ゴミ箱に具体的な投入物を提示する。

<Reduceについて>

- ・ 包装袋の再利用を考える。
- ・ 袋を持参してもらおう。
- ・ 買い物袋を有料化する。（混雑時に手間のかかることをするのは困難かもしれない）

8 . 粗大ゴミ

1 現状



量 *参考のため可燃・不燃の量も載せておく。

ごみの量	(単位) t	リサイクル量	(単位) t
可燃(一般廃棄物)	670	鉄くず	0.5
不燃(産業廃棄物)	392.5		
粗大	56.9		
計	1119.4		

<すでに行われている対策>

不法投棄が多い場所には「ごみ集積所ではない」という立て看板を立てたり、あまりにひどい場合はロープを張ったりしている。

2 問題点

- 不法投棄問題

(1) で見たように、粗大ゴミは基本的に一号館の中庭、15号館/16号館横、数理研/図書館横の3箇所の集積場に集積されるが、その他の場所に不法投棄されたものは通常の処理ルートから外れてしまい、可燃不燃ごみの回収業者であるハッピー運輸倉庫に回収してもらっている。不法投棄されるごみは、可燃・不燃・ビン/カン・粗大ゴミすべてが混在している場合も多い。可燃・不燃ごみは適切に分別されていないと都の清掃局あるいはエコプラントで受け取ってもらえない(つまり、都の清掃局では可燃ごみだけ、エコプラントでは不燃ごみだけが受け取られる)ので、粗大ゴミを再分別しなければならず、余分なコストがかかってしまう。その際のコストはハッピー運輸倉庫が負担している。

- ・ 再利用にまわされていない

3箇所に集積されたものは自転車・鉄くず・木屑はリサイクルされているが、例えばまだ使える机・いす・棚などはごみとして捨てられている。年度末の研究室大整理のときに出されるものの一部は、サークルの部室などで使用するため学生が持っていくこともあるが、大抵はしばらく経った後に再び捨てられることになる。それらの殆どは不法投棄されるので、通常の処理ルートには乗らずかえって処理に余計なコストがかかってしまう。

3 改善策

- ・ ごみの管理が今年度から目黒区になったこともあるので、まだ使える粗大ゴミを目黒区のリサイクルルートに乗せる。年度末の大整理の分だけでも目黒区のリサイクルプラザに引き取ってもらおう。(reduce & recycle)

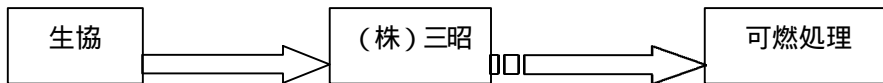
* 目黒区はリサイクル先進区として名高い(と目黒区在住の奥さんから聞いた)

- ・ リサイクル市(環境三四郎主催、4月に主に新入生を対象に開催される不要品活用市)に出品する。

- ・ 東京大学「今年も一年ありがとう！」不要品活用祭(研究室から出る不要品を展示販売する。教官も主体的に参加)を年度末に開く。(忙しいから不可能?)

9 . 生ゴミ

1 現状



量(駒場生協食堂からの排出量) 15 t / 年 (注 ; 回収業者からの報告で正確な数字ではない)
<すで行われている対策>
他大学に習い、コンポスト化の実験。

2 問題点

以前は飼料化が行われていたが現在は安い輸入飼料との競争に負けてしまうため、行われていない。

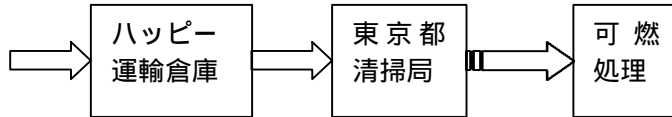
3 改善

- ・「食べ残しなくそうキャンペーン」を行う。『一ヶ月で kg 減らそう』と具体的な数値を設けて、例えばよくあるように『一人 ジャガイモ一個分』を減らそうというように呼びかける(ポスター、卓上メモなどで)。
ごみ減量とともに処理費用も削減できうれしいし、学生の「ごみをへらそう」という意識も高まる。
- ・コンポスト化を実現する。
駒場に畑があれば、そこで使えるのだが…。ほしい人を探す。

10. 落ち葉、

1 現状

フローチャート



通りの脇にオーチュ
ーによって掃き集め
られる

秋から冬にかけて、落ち葉が大量に出る。銀杏の葉は油分が多く、そのままにしておくとするずるになり転倒する人が多くなるので、道の脇に掃き集められ、可燃ごみとして処理される。(以下オーチャー談)「1~2ヶ月掃きつづけねばならず、その作業はとても大変。学生からは景観のため“掃かないで”といわれるが、学部からは“掃いてほしい”といわれる。」

2 問題点

自然に帰ることのできる葉っぱが 可燃ごみとして処理されている。通常の可燃・不燃ごみを減らすのは難しいが葉っぱならばそもそも「ごみとして扱わない」ことができ、本郷では堆肥化の試みがなされている。しかし、駒場には場所がないためそれができない。

3 改善策

葉っぱを土に戻す。

駒場に葉っぱ置き場を探し(例えば、900番講堂の後ろなど)そこに集めておく。